



# 清涼

せいりょう

淨土真宗 本願寺派  
清涼山 善教寺〒663-8184 西宮市鳴尾町 4-10-7  
0798(48)2224  
[www.zenkyoji.jp](http://www.zenkyoji.jp)

※寺報の題字は親鸞聖人のご真筆より依用

## 仏の教えを聞く

仏教が大切にしてきた言葉に「智慧」と「慈悲」という言葉があります。この二つの言葉に込められた仏さまの心を、仏教は大切にしてきました。

仏さまは私たちをどの様にご覧になられるかというと、智慧というすべてのいのちを平等に見つめる眼と、慈悲という他者の痛みや喜びを、ご自身の痛みと喜びであると共感する心で見つめていかれます。これがすべてのいのちの違いを認め、すべてのいのちを慈しむ、自他一如とよばれる仏さまの心です。

原始仏典には、次のようなお釈迦さまの言葉が伝えられています。

一切の生きとし生けるものは、幸福であり、安穏であり、安樂であれ。

慈悲は他者を前提とした心情です。仏さまの智慧は慈悲の心として発動し、他者へと向かっていったのです。だから

らこそお釈迦さまは、三十五歳で智慧の眼を開かれてから、八十歳で入滅されるまでの四十五年間、あらゆる人々の幸福のために教えを説き続けられたのでした。

仏教における智慧とは、「自分さえ良ければいい」という排他的な殻を打ち破つて、慈悲として他者へと発動するものです。それがあなたの喜びが私の喜び、あなたの悲しみが私の悲しみ、と響き合っていく慈悲の世界でした。

そしてこのような心こそ、私たちが眞実と仰ぐべき、尊い世界であると示してくださった方がお釈迦さまだったのです。お釈迦さまのさとられた智慧と、他者に向けられた慈悲の精神を受けて、他者のために生きる、あるいは他者と共に生きるという、慈悲や利他の心を大切に受け継いできたのが、日本へ伝えられた仏教の教えでした。

仏さまの智慧や慈悲の心の素晴らしさ、尊さに触れていく時、私のあり方が少しずつかもしれません、見つめ直さ

れていくのではないでしょうか。人間は自分が超えた真実に出あうことがなければ、自分の本当のすぐたを確認することはできませんし、豊かな人生の歩みを進めいくことも難しいように思います。眞実に出あうというのは、まさに仏さまの教えを最高の真実と仰いで生きていくという、新しい人生観の基盤が与えられていくことを意味しているのです。

コロナによって、ますます混沌を極める不安な時代、状況だからこそ、自分の都合だけに振り回されて生きていくのではなく、仏さまの教えをわが身に聞かせていただきながら、何か自分にできることを考え、実践していきたいと思います。

ご家庭で回覧し、とじて保存くだされば幸いです。



令和2年 8月8日

# お盆法要（歓喜会）



新型コロナウイルス感染症が拡大している現状、また法要を行う会場内が密になりやすく、お参りのみなさまの安全を確保しにくい環境にあるため、ご門徒のみなさまにお参りをいただいてのお盆法要は中止にする判断をしました。

お預かりしました法名紙・御仏前をお供えして、寺院関係者のみの内勤めにて読経させていたきました。



令和2年 11月8日

# 報恩講



報恩講は浄土真宗を開かれたご開山・親鸞聖人のご命日の法要です。親鸞聖人のご恩徳を讃えながら、お念佛の教えを聞かせていただく、浄土真宗のお寺で最も大切な法要です。しかしお盆法要の時と同様、新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着いていない状況を鑑み、誠に苦渋の判断ではありましたが、ご門徒のみなさまにお参りをいただいての法要は、中止にする判断をしました。

みなさまからお預かりしました御仏前をお供えして、寺院関係者のみの内勤めにて読経させていただきました。

# 元旦会

令和3年 1月1日



お盆法要・報恩講法要に引き続き、寺院関係者のみの内勤めにて元旦会のお勤めをいたしました。



今年の永代経法要はコロナ対策としまして、永代経のご懇志をご進納くださいましたご家族の方のみに限定して、お参りをいただきました。

会場内でもコロナ対策を講じながら、仏さまにお参りいただくひと時を過ごしていただきました。一日も早く、以前のように多くのみなさまに、お寺へお参りいただける日がくることを願っています。



# 永代経法要

令和3年 6月5日



## 法要中止の報告

### 秋季彼岸会

令和2年9月13日

### 成道会

令和2年12月5日

お盆にはご先祖がかえつてくるのですか？

淨土真宗 Q&A

淨土真宗の教えでは、淨土に往生し、仏さまに成られた方は再びこの世に還つてくることを説きます。

淨土に往生することを「往相」とい、淨土に往生した者がこの世に還つてくることを「還相」といいます。往相も還相も阿弥陀如来の願いのはたらきによつて成立します。淨土に往生した者は、そのまま淨土にとどまつてゐるわけではなく、苦しみ悩む私たちを教え導くといふはたらきが、阿弥陀如来によつて恵まれます。

ところで、この世に還つてくるといつても、ご先祖の靈が還つくるわけではありません。ご先祖だけではなく、淨土に往生した者は仏さまと成つて、慈悲の心を起して、あらゆる者を救うために還つくるのです。そのはたらきは、私たちがどのような状況であつても、私たちを教え導いてくださるのです。したがつて、お盆だけではなく、いつも常に私たちを導くために還つてくれているのです。

このように仏さまに成られた方は、常に私たちを阿弥陀如来の教へと導いてくださっています。

法要を再開する際には、またあらためて連絡させていただきます。心配な日々が続きますが、どうぞお気をつけてお過ごしください。

前田壽雄著『仏事Q&A 淨土真宗本願寺派』(国書刊行会) 96~97頁引用

### 善教寺佛教壮年会 婦人会のご案内

お寺からのお知らせや今後の予定などに関しては、善教寺のホームページ ([www.zenkyoji.jp](http://www.zenkyoji.jp)) でも情報を公開しています。ぜひご覧ください。

善教寺佛教壮年会・婦人会への加入はいつでも募集中です。ご連絡をお持ちしています。仏さまのご縁で結ばれたみなさんと、お寺でのひと時を過ごされませんか？

お寺の  
ホームページ



善教寺

## 「光の納骨堂」の

ご案内



(光の納骨堂)



(合同墓)

ご案内の通り、安藤忠雄建築研究所の設計・監修のもと、善教寺の境内地に納骨堂と合同墓の工事を進めています。納骨堂と合同墓の外観は完成しましたが、現在は納骨堂に安置予定のガラスで仕上げられた光かがやく仏さま（阿弥陀如来立像）を、平安佛所の江里康慧仏師、京都の迎賓館をはじめ各地でガラス作品を制作されている陶額堂様のご協力のもと、ガラス仏の制作を進めています。コロナ禍の為、進行が遅延しています。年内の完成を目指して進めています。ご希望のみなさまには、大変お待たせをして申し訳ありません。詳細はパンフレットが出来次第、あらためてお知らせいたします。

コーラス  
団員  
募集中

## 善教寺パドマ合唱団

毎月2回・木曜日の14時からコーラスの練習をしています。

どなた様でも入団をお待ちしています。歌うことは健康には勿論のこと、仏教讃歌は歌詞もメロディーもとっても素晴らしいので心の健康にも良いですよ♪

（新型コロナウイルス感染症予防のため、現在、練習は中止しています。今後の予定に関しては直接、善教寺までお問い合わせください）



コーラスの指導をしてくださっている  
東埜 裕子先生

# 意 記 の 長 新 発 チ

※「新発意」は、「しんぱつち」と読みますが、元は発心して僧になつたばかりの人や、仏門に入つてから間もない人を意味していました。それが転じて、お寺の子どもをさす言葉としても使われています。

副住職夫妻の長男・尊顕は7歳。今年の4月から小学生になりました。次男・顕至は3歳になりました。長男は新しい環境にとまどいながらも、友達づくりや宿題に毎日がんばっています。弟の顕至は来年入園する幼稚園のプレ保育がはじまりましたが、母親と離れても泣くことなく、楽しく通っています。

コロナ禍で直接お会いすることが難しい状況ですが、みなさまには今後ともお育てください、宜しくお願ひします。



## お寺の風景



### お寺の関連書籍

副住職が監修と執筆に加わった「かるた48(仏さまのおこころ)」が出版されました。

このかるたは子どもから大人まで、家族みんなで楽しんでいただけるよう、明るくて優しい雰囲気の絵札にし、読み札の裏には解説文を掲載しています。生活の中に仏さまのおこころ(いのちの尊さ、生きることの意味など)を感じていただきたいとの願いから作成しました。ご興味のある方は善教寺までお問い合わせください。



NHK文化センター(神戸教室)にて、「『歎異抄』に聞く～親鸞聖人の歩まれた道～」の講座に、副住職が毎月・第4金曜日に出講しています。

<http://www.nhk-cul.co.jp/school/kobe/>

NHK文化センター(梅田教室)にて、「【オンライン】ふたりの僧侶と読み解く「正信偈」～やさしく学ぶ浄土真宗～」の講座に、副住職が毎月・第2金曜日に出講しています。

[https://www.nhk-cul.co.jp/programs/program\\_1215748.html](https://www.nhk-cul.co.jp/programs/program_1215748.html)

ご興味のある方は、いつでもご連絡ください。



## 聖典勉強会

毎月1回・14時～

副住職が『阿弥陀経』の内容を、みなさんと一緒に読みすすめています。どうなたさまもお気軽にお越しください。

(新型コロナウイルス感染症予防のため、現在、勉強会は中止しています。今後の予定に関しても直接、善教寺までお問い合わせください)